

令和6年度 学校評価（期末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

評価担当部署	「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・具体的な取り組み				自己評価 4-できている 3-まあまあできている 2-あまりできていない 1-できていない			項目毎評価 中項目(平均) 大項目(平均)	自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策 (記入担当:左端の評価担当部署)
	重点目標		自己点検		生徒 292人/326人 (90%)	保護者 208人/326人 (64%)	教職員 36人/36人 (100%)	学校評議員 2人/ 3人 (66%)	項目 毎 評価	中項目 (平均)	大項目 (平均)		
	大項目	中項目	評価方法(アンケート)	実施状況(回数等)									
教務	グラデュエーションポリシー (卒業までにこのような生徒を育てます)	グラデュエーションポリシー	心身ともに健康で調和のとれた人間を育成します。	アンケート1 「本校の教育活動は、心身ともに健康で調和のとれた人間を育成している。」	随時	■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない	生徒: 35, 52, 10, 3	保護者: 32, 52, 10, 6	教員: 36, 61, 30	4			<p>教員を対象とした中間評価では、「そう思う」「ややそう思う」が100%肯定的な結果だったが、期末評価では、教員が97%、生徒は87%、保護者が84%となっている。</p> <p>後期になり、遅刻が常となってしまっている生徒がみられるなど、基本的な生活習慣が身につけていない状態が見受けられる。行事や講演会で心身の安全や、体力の向上をはかっているが、日常的に心身の健康を保てるようにしていきたい。</p>
			具体的な取り組み				<ul style="list-style-type: none"> 総合学科教育全般 「性に関する講演会」「薬物乱用防止教室」等の様々な生徒の安全に関わる講演会の実施 球技大会、文化祭等の充実した学校行事 						
			自己の能力の開発と向上に努める人間を育成します。	アンケート2 「本校の教育活動は、自己の能力の開発と向上に努める人間を育成している。」	随時	■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない	生徒: 35, 53, 9, 2	保護者: 32, 55, 9, 5	教員: 33, 61, 60	4	4	4	<p>教員対象の中間評価は「そう思う」「ややそう思う」が97%だったが、期末評価では94%、生徒は88%、保護者は87%となっている。</p> <p>個別に適した学びが出来、個々の能力が向上するように各授業や学校行事、部活動において工夫をしていきたい。</p>
			具体的な取り組み				<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」や各授業の実施 検定試験の単位認定 部活動や学校行事の実施 						
			自然と文化を愛する心豊かな人間を育成します。	アンケート3 「本校の教育活動は、自然と文化を愛する心豊かな人間を育成している。」	随時	■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない	生徒: 36, 49, 12, 2	保護者: 30, 54, 10, 6	教員: 36, 61, 30	4			<p>教員対象の中間評価は「そう思う」「ややそう思う」が98%だった。期末評価は教員が97%、生徒は85%、保護者が84%となっている。生徒の「あまりそう思わない」「そう思わない」の割合は14%と、グラデュエーションポリシーの中では一番多い。</p> <p>北高の立地を活かした地域理解学習などを取り組む中でより豊かな自然や飯坂の文化について理解が出来るよう継続して工夫をしていきたい。</p>
具体的な取り組み				<ul style="list-style-type: none"> 自然や文化に関する科目の設定 「産業社会と人間」における地域理解学習 									

学研	重点目標Ⅰ	総合学科教育の推進	進路探求への取組	アンケート4 「本校は、産社や探究の時間を通して進路探究に取り組む態度を育てている。」	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <table border="1"> <tr><td>生徒</td><td>60</td><td>35</td><td>5</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>32</td><td>47</td><td>5</td></tr> <tr><td>教員</td><td>69</td><td>31</td><td></td></tr> </table>	生徒	60	35	5	保護者	32	47	5	教員	69	31		4		1,2年次では、職業適性検査を実施している。その結果を参考にしながら行う職業講話や進路ガイダンスを実施している。実際に授業を受けた100%に近い生徒に将来の職業に対する意識の高まりが見受けられた。それに対し、保護者は約80%に止まる結果となっている。前期はHP等を活用し、昨年度より意識して取り組みをアップしていたが、昨年度とほぼ変わらない結果となったため、次年度に向けて手立てを考えた。
			生徒	60	35	5														
保護者	32	47	5																	
教員	69	31																		
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・職業適性検査(1年次)(4月) ・上級学校見学(1年次)(5月) ・職業についてのパズルワーク(1年次)(6月)(外部講師) ・フューチャーライブ(演劇型講演会)(1年次)(7月)(外部講師) ・進路ガイダンス(2年次)(5月)(3年次)(7月) ・職業インタビュー(1年次)(11月) ・ライフプランの作成と発表(1年次)(2月) ・体験型進路ガイダンス(2年次)(2月)(1年次)(3月) 	産社や探究の時間を通して、多くの進路実現へ向けての学習を行っている。進路ガイダンス等は、生徒の進路希望を基にグループ分けをして実施している。アンケート結果から、進路に関して決定しており、目標がある生徒にとっては有意義な時間になるが、決定していない生徒が積極的に取り組めていない。1年次の6月には、進路につながる科目選択が行われることから、進路については、視野を広げた上で保護者とよく話し合い、早急に目標を持たせる指導が大切であると考え。																		
進路	重点目標Ⅰ	総合学科教育の推進	進路講演会・企業学校見学会の実施	アンケート5 「本校の進路講演会や職業講話、学校・企業見学会は役に立っている。」	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <table border="1"> <tr><td>生徒</td><td>54</td><td>40</td><td>5</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>44</td><td>50</td><td>3</td></tr> <tr><td>教員</td><td>75</td><td>25</td><td></td></tr> </table>	生徒	54	40	5	保護者	44	50	3	教員	75	25		3	3.7	・進路指導主事講話は、進路決定までの流れや心構えをに加え、進路情報誌を用いて、先輩たちの取り組みやアドバイスを織り交ぜながら実施した。
			生徒	54	40	5														
保護者	44	50	3																	
教員	75	25																		
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導主事講話(1,2年次・4月) ・進路別ガイダンス(3年次・5月) ・オープンキャンパスガイダンス(2年次・7月) ・インターンシップ(2年次・12月) ・職場見学会(1年次・2月) 	・インターンシップは、生徒の希望に応じて事業所を選定し、予定通り実施した。																		
学研	重点目標Ⅰ	総合学科教育の推進	進路意欲の高揚	アンケート6 「本校の産社や探究の時間での地域理解や職業に就いての学習などが進路意欲の向上につながっている」	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <table border="1"> <tr><td>生徒</td><td>43</td><td>50</td><td>7</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>49</td><td>45</td><td>5</td></tr> <tr><td>教員</td><td>67</td><td>33</td><td></td></tr> </table>	生徒	43	50	7	保護者	49	45	5	教員	67	33		4	3.5	・職場見学会は受入れ企業も決まり、今後実施する。年次との連携を密にし、生徒の進路選択に資する内容にして行きたい。
			生徒	43	50	7														
保護者	49	45	5																	
教員	67	33																		
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談(3年次)(3~4月、随時)(1,2年次)(7~8月) ・職業インタビュー(1年次)(7月~12月)(11月実施) ・地域理解学習講演会(1年次)(1月) ・飯坂町校外学習(飯坂巡検)の実施(1年次)(1月) ・まちづくりシンポジウム(2年次)(2月) 	1・2年次を中心に、多くの講演会等を通して、教員は100%、生徒・保護者は昨年度よりポイントを上げて約93%進路への意識を高めることが出来たと感じている。産業社会と人間のメインの一つでもある職業インタビューについて、進路を意識する重要な授業の一環として位置づけている。今年度は前年度の反省を生かし、学習研究係から生徒全体に授業の意図や注意事項等の話を、三者面談で訪問先を確認する等手立てを講じた結果が現れたのではないかと考えている。また、マナー講習会などを実施し、聞く力や話す力等に加え、アポイントの取り方や名刺交換の仕方、礼状の書き方等、社会人として必要な素養の向上もみられた。																		
学研	重点目標Ⅱ	総合学科教育の推進	科目選択指導	アンケート7 「本校は、科目選択ガイダンスや相談週間などで生徒の進路に合った科目選択ができるように指導している。」	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <table border="1"> <tr><td>生徒</td><td>46</td><td>48</td><td>5</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>38</td><td>52</td><td>5</td></tr> <tr><td>教員</td><td>56</td><td>39</td><td>3</td></tr> </table>	生徒	46	48	5	保護者	38	52	5	教員	56	39	3	3	3	1年生生向けに系列説明会、科目選択ガイダンスなどを丁寧に行なった。また科目選択のシミュレーションや1か月間の相談月間を設け、生徒の進路に応じた科目選択ができるよう支援した。また、ミスマッチを防ぐために本校独自の取り組みとして、系列別に先輩の科目例や体験談を聞く機会を設けている。しかし、アンケートの結果から、9割強の生徒・保護者はガイダンスが役に立っているとしているが、思わないという生徒や保護者も若干名ながらいいため、原因を探り、より丁寧に説明していく必要があると感じている。
生徒	46	48	5																	
保護者	38	52	5																	
教員	56	39	3																	
								現在、学級減にともない教員数も減る方向となり、開設できる講座も減少し、選択肢が減少していることが懸念される。総合学科の特色である、多岐の選択科目から進路実現に向けて												

		ト	具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 2年次については「総合的な探究の時間Ⅰ」で2時間、ガイダンスを実施。 1年次については「産業社会と人間」の授業で4時間、ガイダンスおよび3年次生の体験発表などを実施。 科目選択相談月間を設け、各教科の担当者に生徒が相談や質問できるようにした。 三者面談(1, 2年次・夏季休業中) 			<p>百字料の特徴でもある、多くの選択科目から進路表現に開いた自分だけの時間割を作るということが厳しくなるかもしれないことも考え、生徒に最善の選択ができるよう工夫が必要である。</p>																								
生指	重点目標Ⅱ	1 基本的な生活習慣の確立	服装・頭髪検査の徹底	<p>アンケート8 「本校は、服装指導や頭髪指導など細かく生徒指導している」</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>ややそう思う</th><th>あまりそう思わない</th><th>そう思わない</th><th>分からない</th></tr> <tr><td>生徒</td><td>54</td><td>39</td><td>6</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>63</td><td>34</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>教員</td><td>47</td><td>39</td><td>14</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	生徒	54	39	6	1	0	保護者	63	34	2	0	0	教員	47	39	14	0	0	4	4.0	<p>服装頭髪指導については、統一した指導基準で全教員の割り当てのもと実施した。アンケート結果から特に保護者の「そう思う」が63%、「ややそう思う」と合わせると97%の評価を得られている。教員間の共通理解のもと検査時だけでなく、日常生活においても継続して指導を徹底する必要がある。</p>
			Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない																							
			生徒	54	39	6	1	0																							
保護者	63	34	2	0	0																										
教員	47	39	14	0	0																										
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 始業式・全校集会時に服装頭髪指導を実施 遅刻カードの活用 県下一斉服装指導(6月、10月)に合わせ、服装頭髪指導の実施 登校指導の実施 																														
高校生として必要な社会性	<p>アンケート9 「本校は、あいさつや言葉づかいがきちんとできるように指導している」</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>ややそう思う</th><th>あまりそう思わない</th><th>そう思わない</th><th>分からない</th></tr> <tr><td>生徒</td><td>61</td><td>36</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>34</td><td>50</td><td>14</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>教員</td><td>31</td><td>61</td><td>8</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	生徒	61	36	3	0	0	保護者	34	50	14	0	0	教員	31	61	8	0	0	4	<p>挨拶や言葉遣いなどは、集会時や登校指導などによる指導はもとより、日常の教師側の働きかけ・対応が重要であることから、毎日の授業や学校生活・部活動などあらゆる場面を通して生徒へのより積極的なかわり・指導をお願いしていきたい。</p>				
Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない																										
生徒	61	36	3	0	0																										
保護者	34	50	14	0	0																										
教員	31	61	8	0	0																										
生指	規律ある生活態度の育成	1 基本的な生活習慣の確立	交通ルールの遵守	<p>アンケート10 「本校は、登校や下校時等で交通ルールを守るように指導している。」</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>ややそう思う</th><th>あまりそう思わない</th><th>そう思わない</th><th>分からない</th></tr> <tr><td>生徒</td><td>67</td><td>28</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>48</td><td>45</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>教員</td><td>53</td><td>42</td><td>6</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	生徒	67	28	4	0	0	保護者	48	45	5	0	0	教員	53	42	6	0	0	4	4.0	<p>アンケート結果では生徒の交通安全に対する意識は高い。しかしながら、自損の転倒事故や軽度の接触事故が多く起きているが、中には重大事故につながりかねない事例もある。道路交通法の一部改正により令和5年4月1日から全ての自転車利用者に対し、ヘルメットの着用が努力義務となったこともあり、ヘルメット着用の啓発、そして、なによりも生徒自身の安全意識が最も重要なので、さらに意識を高めるような啓発を考えていきたい。</p> <p>PTA健全育成委員の協力をいただき、自転車安全運転走行一斉指導を実施することができた。</p> <p>駐輪指導では無施錠や無届け自転車での通学があり、盗難被害や事故等が懸念される。</p>
			Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない																							
生徒	67	28	4	0	0																										
保護者	48	45	5	0	0																										
教員	53	42	6	0	0																										
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会時の全体指導 1年次生に交通講話を実施 年間3回自転車安全運転走行一斉指導の実施 クラス掲示による啓発 駐輪指導の実施 自動車学校入校説明会の実施(3年次生徒・保護者対象) 																														
生指	規律ある生活態度の育成	2 規律厳守とマナー	情報機器の適切な使用	<p>アンケート11 「本校は、スマートフォンやパソコンなどの情報機器を適切に使用するように指導している」</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>ややそう思う</th><th>あまりそう思わない</th><th>そう思わない</th><th>分からない</th></tr> <tr><td>生徒</td><td>67</td><td>29</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>28</td><td>50</td><td>17</td><td>3</td><td>0</td></tr> <tr><td>教員</td><td>50</td><td>44</td><td>6</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	生徒	67	29	3	0	0	保護者	28	50	17	3	0	教員	50	44	6	0	0	4	4.0	<p>アンケート結果では生徒の適切な使用に対する意識は高い。しかしながら、スクールタイム中のスマートフォンの使用、歩きスマホやイヤホンで音楽を聴きながらの自転車走行や歩行、SNSの不適切な使用等が見受けられる。法律や条例、マナーを教える指導が必要である。</p>
			Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない																							
生徒	67	29	3	0	0																										
保護者	28	50	17	3	0																										
教員	50	44	6	0	0																										
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 新入生オリエンテーション時の情報モラル講話の実施 年度始めに情報機器の取り扱いについてルールの周知 集会時に情報機器の取り扱い及びSNS等の使用についての指導 																														
教相		3 教育相談の充実	教育相談の充実	<p>アンケート12 「本校は、教育相談やカウンセリング等、生徒の悩み事を相談する体制ができています。」</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>ややそう思う</th><th>あまりそう思わない</th><th>そう思わない</th><th>分からない</th></tr> <tr><td>生徒</td><td>37</td><td>42</td><td>14</td><td>7</td><td>0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>24</td><td>50</td><td>10</td><td>16</td><td>0</td></tr> <tr><td>教員</td><td>67</td><td>33</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	生徒	37	42	14	7	0	保護者	24	50	10	16	0	教員	67	33	0	0	0	4	4.0	<p>教育相談については、生徒や保護者に対して、案内文や教育相談日より機会を見つけながら提示し周知に努めた。生徒の「そう思う」が37%、保護者は24%と昨年と同様の3割程度の結果であったが、生徒の相談は養護教諭や担任からの勧めで継続的に利用するケースが多く、保護者では養護教諭に直接申し入れでの利用もあった。教育相談の利用について、周知方法を工夫しながらよりわかりやすい相談体制を整え、充実を図りたい。</p> <p>相談後は、スクールカウンセラーと関係職員で振り返りの時間をもち、相談内容や相談以降の状況確認など、生徒の情報共有を</p>
Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない																										
生徒	37	42	14	7	0																										
保護者	24	50	10	16	0																										
教員	67	33	0	0	0																										

		充実	具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 木曜日の午後にSCによる教育相談を実施 必要に応じてSSWとの面談を実施 教育相談利用を呼び掛ける掲示物や、教育相談だよりを発行 教員対象に気になる生徒の調査を実施 			<p>行うことで個々の状況にしていねいに対応することができた。今後も生徒の状況を把握し、関係職員との共通理解を図りながら、継続的に個々の相談に対応できるように努めていきたい。</p>														
教務	重点目標Ⅲ 基礎学力の向上と進路実現	1 学習習慣と基礎学力の向上	授業態度の育成	<p>アンケート13 「本校は、授業は真剣に取り組むよう指導している。」</p> <p>随時</p> <p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <table border="1"> <tr> <td>生徒</td> <td>51</td> <td>45</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>35</td> <td>51</td> <td>8</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>	生徒	51	45	4	1	保護者	35	51	8	6	教員	50	50	0	0	4	<p>・授業に真剣に取り組むよう指導している教員の比率が100%と高く、真剣に取り組んでいると回答する生徒が96% (R5と同じ) となっている。ただ、子供が真剣に取り組んでいると思うと回答した保護者は86% (R5は82%) である。授業の様子等もこまめに発信するとともに、今後も真摯に指導していきたい。</p> <p>・授業改善に努めている教員が中間評価では96%だったのが97%に微増した。これに対し授業が分かりやすいと回答している生徒は86% (R5は91%)、「子どもが授業が分かりやすいと感じていると思う」と回答した保護者は69% (R5は90%) である。保護者の31%は「あまりそう思わない」「そう思わない」「分からない」という回答で、常に授業の様子をみているわけではないことや、今回より「分からない」という項目が増えてことも関係しているかもしれない。ただ、この結果を真摯に受け止め、生徒が授業内容をより理解できるよう配慮をしていきたい。</p> <p>・個々の学びが深まるために、適宜ICTを使用していけるようにしたい。また、生徒への指導時間や、授業改善に取り組める時間を確保できるように適宜生成AIや自動採点システム等を利用出来るようにしていきたい。</p>
			生徒	51	45	4	1														
			保護者	35	51	8	6														
			教員	50	50	0	0														
授業改善	<p>アンケート14 「本校は、授業改善に努めている。」</p> <p>随時</p> <p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <table border="1"> <tr> <td>生徒</td> <td>33</td> <td>53</td> <td>12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>18</td> <td>51</td> <td>17</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>56</td> <td>42</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>	生徒	33	53	12	2	保護者	18	51	17	11	教員	56	42	0	0	4				
生徒	33	53	12	2																	
保護者	18	51	17	11																	
教員	56	42	0	0																	
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会(互見授業として9月、11月にそれぞれ1週間づつ実施) 生成AIについての研究協議(6月・学校訪問時) ICT活用校内研修会(6月、11月) 自動採点システム講習会(9月) Google meet配信講習会(2月) 																				
学習習慣	<p>アンケート15 「本校は、朝自習や家庭学習(課題含む)に真剣に取り組むよう指導している。」</p> <p>随時</p> <p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <table border="1"> <tr> <td>生徒</td> <td>36</td> <td>46</td> <td>14</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>20</td> <td>41</td> <td>26</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>28</td> <td>58</td> <td>11</td> <td>3</td> </tr> </table>	生徒	36	46	14	4	保護者	20	41	26	9	教員	28	58	11	3	3				
生徒	36	46	14	4																	
保護者	20	41	26	9																	
教員	28	58	11	3																	
			具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 朝自習 			<p>「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した教員が中間評価と同じで14%、生徒が18%、保護者が35%と高くなっている。82%の生徒は朝自習や家庭学習に取り組んでいるとの回答も得られている。日々取り組んでいる朝自習の時間が学力定着につながるよう指導体制も含めて工夫していきたい。</p>														
図書			学習習慣	<p>アンケート16 「本校は、図書館の活用を進めている。」</p> <p>随時</p> <p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <table border="1"> <tr> <td>生徒</td> <td>25</td> <td>28</td> <td>26</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>14</td> <td>26</td> <td>34</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>25</td> <td>67</td> <td>8</td> <td>0</td> </tr> </table>	生徒	25	28	26	20	保護者	14	26	34	24	教員	25	67	8	0	3	<p>・図書委員の選書研修で生徒目線から選んだ図書を館内に置くことで、生徒の読書に対する興味関心を持たせる工夫を行った。</p> <p>・新着図書のお知らせを定期的に発行し、生徒に周知徹底を図っている。</p> <p>・各教科と連携し、授業での図書館の利用の機会を増やすよう心掛けている。</p>
			生徒	25	28	26	20														
保護者	14	26	34	24																	
教員	25	67	8	0																	
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中の図書の貸し出し冊数を増やすなどして、生徒に読書に親しめる環境を作るよう心掛けている。 生徒が興味を持てる新刊本などをリクエストをもとに館内に揃え、蔵書内容を充実させている。 特設展示コーナーを設け、テーマごとに生徒の興味関心を引く図書を示している。 																				
		重点目標Ⅲ 基	2 生徒	<p>アンケート17 「本校の課外や小論文、三者面談等は、生徒の進路実現に役立っている」</p> <p>随時</p> <p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <table border="1"> <tr> <td>生徒</td> <td>40</td> <td>48</td> <td>9</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>27</td> <td>51</td> <td>7</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>53</td> <td>44</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </table>	生徒	40	48	9	4	保護者	27	51	7	13	教員	53	44	3	0	4	<p>・長期休業中を中心に、各教科の協力を得て、学力の向上に向けて実施することができた。生徒は、結果に即座に反映する勉強に目が向きがちであるが、基礎学力があってこそその対策となるので、進路に応じた対策も重要であるが、毎日の学習の積み重ねが重要であることの意識を育てたい。</p> <p>・外部講師を活用した公務員希望者対象の課外を1回実施した</p>
生徒	40	48	9	4																	
保護者	27	51	7	13																	
教員	53	44	3	0																	
			具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 平常課外(各年次) 夏季課外(各年次)・冬季課外(各年次)・公務員課外・小論文指導(9月～) 																	

進路	進路 の 進路 実現	資格取得・検定の 奨励	アンケート18 「本校は、資格 取得・検定試験 等に積極的に取 組んでいる。」	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <p>生徒 40 39 16 4</p> <p>保護者 27 35 24 11</p> <p>教員 56 39 6</p>	4	4.0	3.7	<p>と、取り組んで実施した。</p> <p>・資格・検定へ向けて、課外授業を実施するなど、各教科を中心によく取り組んで頂いた。資格取得は進学・就職に優位なものとなるので、引き続き指導をお願いしたい。</p>
		具体的な取り組み	・各種検定試験					
生徒会	重点 目標 IV 健康 な心 身の 育成	部活動加入率の 向上	アンケート19 「本校は、 部活動の活 性化に努め ている。」	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <p>生徒 59 13 6 21</p> <p>保護者 54 21 9 13</p> <p>教員 11 58 25 6</p>	3			<p>前年度から比較すると(そう思う、ややそう思う)などの肯定的な回答が、生徒、保護者、教員ともに減少(生徒77%→72%、保護者91→75%、教員73%→60%)している。</p> <p>原因として、部活動加入率はさほど下がっていないが、毎日活動する部活動への入部を敬遠したり、入部しても辞めて再入部しない率が上がっていることなどが上げられる。学校として部活動活性化を目指すのなら、以前のように1年次の段階では部活動に必ず入部するようこの流れになっても良いと感じるが、もはや中学校で部活動入部自由化の現在、それも難しい。生徒会ができることとして、部活動の魅力伝える企画を工夫したり、部活動に所属しているからこそスポットがあたる行事を盛り上げ、また、部活動を頑張っている生徒を応援する雰囲気づくりを進めていきたい。</p>
		具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生への部活動紹介冊子配布 ・部活動見学期間の設定期間配慮。 ・選手壮行会の2回開催。壮行会における出場選手の発表内容や演出の工夫。 ・応援団の結成。 ・応援団と生徒会による壮行会や野球の試合の応援と部活動加入生徒を応援する雰囲気作り。 ・中学校体験入学の際、中学生の部活動見学案内活動。 					
		生徒会行事の成 功	アンケート20 「本校は、球 技大会などの 生徒会行事 や学校行事に おいて生徒を 指導し、活性 化に努めてい る。」	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <p>生徒 68 26 4 1</p> <p>保護者 59 32 7 1</p> <p>教員 64 36</p>	4	3.5	3.8	<p>生徒会活動を見る機会の少ない保護者は91%にとどまっているが、実際に見たり一緒に活動している生徒のそう思うとややそう思うが94%、教員が100%と大変高い水準となっている。</p> <p>今季生徒会では、春季球技大会で教員チーム対戦企画、入学式、対面式の特設合唱団結成、対面式のスライドショー作成、部活動紹介の部長による魅力紹介企画、新応援団の結成と応援実施、夏季球技大会のルールの見直し、そして小文化祭のステージ企画や旗制作企画、開閉会式のイベント準備など積極的に活動した。生徒会活動に意欲的な役員と、それに協力してくれる生徒達の機運が、生徒会行事の成功に繋がっている。</p> <p>次年度は公開文化祭開催年度でもあり、保護者に対し、生徒会活動への理解を深める機会を模索したい。</p>
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・対面式、校歌指導、部活動紹介、生徒総会、応援団結成、野球応援、選手壮行会(2回)、体験入学、球技大会(夏・春)、小文化祭、「北斗」発行等の実施。 ・生徒会行事以外の学校の様々な活動での生徒会の協力体制。 ・入学式時の特設合唱団結成等、部活動の新しい活躍の場の創出。 ・生徒会誌「北斗」による、生徒会活動や学校生活の周知。 ・球技大会、小文化祭等における各委員会への仕事割り振りと支援。 ・小文化祭において、各文化部や委員会の活動の場の提案。 							
学研	2 ボラ ンテ ィア 活 動 の	ボランティア活動の 推進	アンケート21 「本校は、 体験型授業 やボラン ティアが活 発である。」	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <p>生徒 22 29 27 22</p> <p>保護者 24 48 12 14</p> <p>教員 36 58 6</p>	4	4.0	4.0	<p>具体的な取り組みにもあるように、保育系科目で実施した体験型授業やJRC部、生徒会を中心に多くのボランティア活動を行った。</p> <p>昨年度よりJRC部顧問がボランティアの連絡調整に入ったことにより、系列に限らず幅広くボランティアの情報を広げることができるようになったため、アンケートでは、ほぼ100%の教員が肯定的な回答であった。</p> <p>肯定的な意見が生徒51%、教員94%とばらつきがある原因は、生徒にはアンケートで参加したかどうかを聞いているため、一部の参加していない生徒の回答やボランティア活動を実施していること自体を知らない生徒・保護者がいることが予想される。次年</p>
		具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども文化選択3年次・いざか幼稚園夏祭りボランティア参加 ・保育基礎選択2年次・いざか幼稚園運動会ボランティア参加 ・生徒会・薬物乱用防止に関する街頭啓発活動 ・JRC部・福島駅前の清掃・福島駅でのマナーアップキャンペーン参加・募金活動 ・茶道部・香積寺の呈茶席ボランティアに参加 					

		推進		ノースエンジェルス(福島北警察署より依頼)防犯意識の啓発活動 その他有志・「サマーショートボランティア」に多くの生徒が参加 等			度は、実施した活動については、担当教員に写真等で記録を残すよう依頼し、HP等を活用するなどして改善していきたい。	
施設 厚生	重点目標Ⅳ	3	環境美化	<p>アンケート22 「本校は、清掃では、一人ひとりの役割分担を明確にし、責任を持って取り組むよう指導・監督している。」</p> <p>・通常清掃(毎日) ・大掃除(長期休業前後) ・教室整備(年度末)</p>	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <p>生徒 60 35 4 1 保護者 23 52 9 2 14 教員 47 47 3 3 1</p>	4	4.0	<p>・アンケートの結果から、自分の役割に責任をもって清掃を行っている生徒は95%(R5は96%)、本校が校内美化を推進していると回答した保護者は75%(R5は74%)であることがわかった。保護者は来校する機会が少ないので評価しにくい点から校内美化の様子をもっとホームページなどで発信するなどの努力が必要であると感じた。また、役割分担を明確にして指導している教員は中間評価の88.6%から94%に増えている。ワックス清掃や教室整備など後期に実施することが原因であることも関連していると思われる。次年度以降はさらに生徒数、教員数が減少していくことを鑑みて、清掃区域や方法について検討することが課題である。</p> <p>・環境委員会では前期にクラス担当区域の清掃用具入れの清掃と用具の交換、後期はワックス清掃や教室整備、清掃用具の交換を実施した。教室の床が『はくり清掃』から『洗剤清掃』に変更することができた。今後も学習環境の整備を継続していきたい。</p>
		4	保健教育	<p>アンケート23 「本校は、保健教育の推進に努めている。」</p> <p>性教育講演会(3回)</p>	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <p>生徒 47 43 8 2 保護者 15 50 8 1 25 教員 58 42 1 1 1</p>	4	4.0	<p>3.8</p> <p>・アンケートの結果ではそう思うと回答した割合が生徒90%、教員100%と高い割合であった。しかし、そう思わないと回答した生徒が10%いることを念頭において、次年度の実施の際に留意していきたい。保健委員会で、石けん補充や感染症の呼びかけを実施した。アンケートの結果では保護者のそう思うと回答した割合が65%(R5は91%)と減少していることから、実施している保健活動もホームページや保健だよりを通して、保護者の方々にも発信する努力が必要であると感じている。</p> <p>・性教育講演会についてはそれぞれの年次に必要な内容で計画した。1年次は夏季休業前に行うことができ、効果的であると考えており、次年度以降も継続したい。3年次は11月に、2年次は12月に実施した。LHRでの実施なので日程や内容・講師選定など各年次と連絡調整しながら進めたい。養護教諭と体育科教員のTTによる保健授業は2年次は7月、1年次は12月に実施した。</p>
渉外	健康な心身の育成	4	保健教育	<p>具体的な取り組み</p> <p>・性教育講演会1～3年(LHR) ・養護教諭と体育科教員のTTによる性教育講座(保健) ・保健だよりの発行 ・保健室前のポスター貼付 ・眼科および歯科個別指導の実施 ・保健委員会…教室の換気や手洗いの呼びかけ、石けん補充、感染症対策の呼びかけ(昼の放送)など</p>				
		3	保護者との連携	<p>アンケート24 「本校は、学校と保護者との連携が図られている。」</p> <p>PTA役員会・理事会が定期的に行われている</p>	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <p>生徒 52 35 9 4 保護者 26 57 13 2 1 教員 42 56 3 1 1</p>	3		<p>PTA総会を開催した。来年度以降いかに出席者を増やすかが課題であり、PTA総会の開催時期や運営の仕方など検討しなければならぬ。PTA役員会や理事会は、昨年と比較して出席者が増えてさまざまな意見が出るようになり、なお7月の球技大会のときにPTA主催のアイス販売が行われ、昨年よりアイス販売に参加したPTA役員やクラス理事は増加した。PTA活動の活性化が見られる。なお竹藪伐採は、全学年対象にしたため参加者数は増加した。</p>
教務	家庭・地	4	家庭への情報発信	<p>アンケート25 「本校は、メールやホームページの更新なので家庭への情報発信に努めている。」</p>	<p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない</p> <p>生徒 26 37 27 10 保護者 35 51 8 2 5 教員 53 47 1 1 1</p>	4		<p>100%の教員がメールやホームページで情報発信をしているという回答に対して、86%の保護者から「そう思う」「ややそう思う」と回答を得ている。15%の保護者が「あまりそう思わない」「そう思わない」「分からない」という回答であった。従来のプリントでの連絡と並行してインターネット上での情報発信もこまめに行っていた。</p> <p>生徒は、学校からのメールやホームページをよく確認しているのは99%という生徒だった。クラス顧問をはじめ、アホな</p>

学研	地域との連携	地域との連携	アンケート26 「本校は、地域との連携が図られている。」	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新(随時) ・メール配信 	3.7	3.7	<p>るのりほりる70といつ稲米につた。クノヘルムよこを辿しし夜乗の連絡をしている場合もあるのでこまめに確認するように声掛けしていきたい。</p> <p>アンケートの結果、肯定的な意見が生徒・保護者(80%弱)、教員(100%)と乖離があった。これは、生徒・保護者に地域連携が何を指しているかわかっていないのではないかと推測されるため、次年度以降アンケートの文言についてわかりやすいよう改善していきたい。</p> <p>1年次の飯坂巡検では、講演会を含めた事前学習を行ったうえで、実際に飯坂町を散策することで地元の魅力を再確認することができた。</p> <p>2年次では、今年度新しい取り組みとして、福島県庁・福島市役所主催の出席講座を活用した。</p> <p>3年次の総合的な探究の時間Ⅱでは、自分の進路希望の観点から地域課題を捉えて課題研究に取り組む生徒が多く、地域に出て学習している生徒が多く見られた。</p> <p>今後も地元の魅力や課題について調べたり、話を聞いたりする学習活動を地元と連携していきたい。</p>
		具体的な取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・地域理解外部講師(いざかサポーターズクラブ)講演会(1年次)(4月) ・地域理解校外学習(はなももの里・館の山散策)(1年次)(4月) ・総合的な探究の時間Ⅱ(3年次)(随時) ・福島県庁出席講座(2年次)(7月) ・地域理解外部講師(飯坂温泉協会会長)講演会(1年次)(1月) ・地域理解校外学習(飯坂町巡検)の実施(1年次)(1月) ・まちづくりシンポジウム(2年次)(2月) 	4		
教頭	満足度	意義ある学校生活	アンケート27 「生徒は満足した学校生活を送っている。」	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新(随時) ・メール配信 	3.0	3.0	3.0
		具体的な取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・満足度は、本校の教育活動全体を総括して、各項目をPDCAサイクルで検証している。 ・具体的な取り組みは、各年次や校務分掌、教職員それぞれが担っている。中間評価後、教職員一人一人がそれぞれの反省を踏まえ、家庭、地域と連携を図りながら、生徒の高校生活が充実したものになるように努力してきた。 ・生徒と関わる時間の確保のため、働き方改革推進委員会を立ち上げ、働き改革を進めてきた 	3.0	3.0	<p>生徒、保護者、教員ともに、回答には昨年度と大きな変動が見られなかった(昨年度の肯定的回答 生徒87% 保護者83% 教員95%)。生徒は概ね学校生活に満足していると考えられるが、否定的意見を持つ生徒も一割強いることから、生徒にとって意義ある学校生活にするための努力を今後も続けていく必要がある。</p> <p>行事で生徒の活躍が見られる場面を作ることや、服装頭髪指導の基準見直しについて、引き続き検討していく。また、環境面に関して、冷暖房については施設の老朽化や燃料費の高騰などにより全員が満足できる環境を作ることは難しい面もあるが、教室の温度管理を意識しながらできる範囲で快適な環境を模索していきたい。</p> <p>今年度より、校内に働き方改革推進委員会を立ち上げ、教職員の働き方について、できることから取り組みを始めている。教職員のストレスチェックの結果では、依然として高い水準ではあるものの昨年度よりは仕事の量的負担において緩和傾向が見られている。今後も教職員の多忙化解消に向けて検討していき、教職員が生徒と向き合う時間の確保に努めたい。</p> <p>今年度は、県の総合学科研究発表会において、展示発表部門で三年連続となる最優秀賞、口頭発表部門で優秀賞(第二位)を受賞することができた。総合学科で三年間学んだことの集大成で素晴らしい成績を収めることができた。今後も生徒一人一人の個別最適な学びが担保できるように、教職員一丸となって取り組んでいきたい。</p>